

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県小浜島

増産プロジェクトにおける令和5年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況

生産計画の
達成状況等

1 令和5年産の生産実績

	収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
H28年産実績	32	2	23	58	6,637	5,944	4,048	4,603	2,155	120	932	3,207
H29年産実績	38	3	34	74	6,578	4,776	4,105	5,394	2,501	133	1,377	4,011
H30年産実績	25	5	39	70	6,163	4,166	3,953	4,775	1,564	211	1,544	3,319
R元年産実績	31	3	23	58	5,165	3,477	3,134	4,260	1,621	107	724	2,452
R2年産実績	33	6	30	68	6,607	5,353	4,628	5,629	2,148	308	1,396	3,852
R3年産実績	33	7	37	77	7,565	4,563	5,454	6,284	2,514	309	2,033	4,856
R4年度実績	27	3	48	78	5,490	2,507	3,104	3,900	1,460	74	1,490	3,024
R5年増産計画	55	4	15	74	7,200	5,250	5,000	6,649	3,960	210	750	4,920
R5年増産実績	9	10	40	59	6,122	4,736	456	4,731	541	456	1,785	2,782
(対計画比%)	(16.1)	(240.5)	(268.9)	(79.5)	(85.0)	(90.2)	(9.1)	(71.2)	(13.7)	(216.9)	(238.0)	(56.5)
(対前年比%)	(32.7)	(320.7)	(84.0)	(75.4)	(111.5)	(188.9)	(14.7)	(121.3)	(37.1)	(615.6)	(119.8)	(92.0)
R7年産増産計画	55	4	15	74	7,200	5,000	5,000	6,600	3,960	210	750	4,920

2 その他指標の動向 令和4年産→令和5年産

・株出栽培の割合	61.5%	→	68.6%	・さとうきび作農家戸数	58戸	→	51戸
・平均糖度	13.4度	→	14.5度				

増産目標に対する位置づけ	令和5年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった <table><tr><td></td><td>収穫面積</td><td>単収</td><td>生産量</td></tr><tr><td>(計画)</td><td>74ha</td><td>6,649kg/10a</td><td>4,920t</td></tr><tr><td>(計画)</td><td>59ha</td><td>4,731kg/10a</td><td>2,782t</td></tr></table> 令和5年産収穫面積は58.8haで目標である74haを下回り、計画比79.5%であり、10a当たりの収量は4.7tで目標である6.6tを下回った。生産量は2782tと目標である4920tを下回り計画比56.5%となった 令和5年8月干ばつ、9～12月にかけての長雨により夏植え面積を確保できなかったことや農家の高齢化や担い手不足により春植や株出面積が拡大したことも減産の要因にあげられる		収穫面積	単収	生産量	(計画)	74ha	6,649kg/10a	4,920t	(計画)	59ha	4,731kg/10a	2,782t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	74ha	6,649kg/10a	4,920t										
(計画)	59ha	4,731kg/10a	2,782t										
課題	① 生産農家の高齢化による労働力不足・肥培管理不足 ② かんがい施設の整備も不十分で、生産農家のかん水への意識が低く、作業の構築がされていない ③ 物価高の影響による生産意欲の低下												
令和5年産における取組方針	主なさとうきび生産振興策として ① 製糖工場に事務局を設置し、農作業受委託システムの整備とデジタルプラットフォームを活用した情報共有体制の構築 ② 展示圃場を設置し、かん水を奨励 かん水効果や水量、期間、費用等を具体的に掲示し農家へ促進 ③ 補助事業を効果的に取り入れ、生産性向上を支援する												

(1)経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
①効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保	【実施した取組】 ・補植用採苗圃	・受委託システムを強化しつつ、高齢者でも可能な栽培方法の提案 ・製糖工場に事務局を設置し、農作業受委託システムの整備とデジタルプラットフォームを活用した情報共有体制の構築 ・補助事業を効果的に取り入れ、生産性向上を支援する																																																						
	【目標の達成状況】																																																							
	<table><tr><td></td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R元</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>認定農業者</td><td>21</td><td>21</td><td>21</td><td>10</td><td>11</td><td>21</td><td>19</td><td>21</td></tr><tr><td>農業法人</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr></table>			H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	認定農業者	21	21	21	10	11	21	19	21	農業法人	1	1	1	1	1	1	1	2																											
			H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																																														
認定農業者	21	21	21	10	11	21	19	21																																																
農業法人	1	1	1	1	1	1	1	2																																																
【課題】 ・高齢化に伴い労働力が不足している ・事務局が確立されておらず、生産農家訪問や圃場巡回での肥培管理指導では不十分 ・物価高による生産意欲の低下																																																								
②農業共済制度への加入促進	【実施した取組】 ・農家懇談会にてさとうきび共済制度の説明(6月・12月) ・農業共済組合と連携し、農業共済加入推進(7月)	・さとうきび共済制度説明会を開催し、未加入者・新規就農者への推進を図る ・引続き、農業共済組合との連携を図り、加入促進を図る ・単収の向上																																																						
	【目標の達成状況】																																																							
	<table><tr><td></td><td>H28 (29年産)</td><td>H29 (30年産)</td><td>H30 (R元年産)</td><td>R元 (R2年産)</td><td>R2 (R3年産)</td><td>R3 (R4年産)</td><td>R4 (R5年産)</td><td>R5 (R6年産)</td></tr><tr><td>加入戸数 (戸)</td><td>27</td><td>29</td><td>27</td><td>26</td><td>25</td><td>25</td><td>19</td><td>19</td></tr><tr><td>戸数引受率 (%)</td><td>55.1</td><td>61.7</td><td>50.9</td><td>49.1</td><td>43.1</td><td>47.2</td><td>32.8</td><td>33.0</td></tr><tr><td>引受面積 (ha)</td><td>47</td><td>44</td><td>31</td><td>37</td><td>40</td><td>43</td><td>38</td><td>37</td></tr><tr><td>面積引受率 (%)</td><td>63.1</td><td>63.6</td><td>53.5</td><td>54.1</td><td>51.5</td><td>62.1</td><td>48.8</td><td>48.0</td></tr><tr><td>共済金額 (千円)</td><td>37,479</td><td>33,877</td><td>25,515</td><td>30,168</td><td>33,500</td><td>35,508</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>			H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	加入戸数 (戸)	27	29	27	26	25	25	19	19	戸数引受率 (%)	55.1	61.7	50.9	49.1	43.1	47.2	32.8	33.0	引受面積 (ha)	47	44	31	37	40	43	38	37	面積引受率 (%)	63.1	63.6	53.5	54.1	51.5	62.1	48.8	48.0	共済金額 (千円)	37,479	33,877	25,515	30,168	33,500	35,508	－	－
			H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)																																														
加入戸数 (戸)	27	29	27	26	25	25	19	19																																																
戸数引受率 (%)	55.1	61.7	50.9	49.1	43.1	47.2	32.8	33.0																																																
引受面積 (ha)	47	44	31	37	40	43	38	37																																																
面積引受率 (%)	63.1	63.6	53.5	54.1	51.5	62.1	48.8	48.0																																																
共済金額 (千円)	37,479	33,877	25,515	30,168	33,500	35,508	－	－																																																
【課題】 ・経営規模が小さいため加入意欲が低い ・製糖工場に事務局を設置し、農作業受委託システムの整備とデジタルプラットフォームを活用した情報共有体制の構築 ・共済制度への理解度が不十分																																																								

(2)生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題									今後の取組方向
①気象災害に強い生産基盤の整備	【実施した取組】 ・展示圃場を設置し、かん水を奨励									・展示圃場を設置し、かん水を奨励 かん水効果や水量、期間、費用等を具体的に掲示し農家へ促進 ・期に対策が実施できるよう、実施計画と作業をカスタマイズ化 ・心土破碎によって排水性を高める 8月からの植付でリスク分散を図る
	【目標の達成状況】 (単位:%)									
		H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	
	ほ場整備率	63.0	63.9	63.0	63.9	63.9	64.0	59.4	83.9	
	水源整備率	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5	17.4	16.5	
	畑地かんがい整備率	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.8	16.0	
注) 整備率は竹富町全体の数値										
	【課題】 ・かんがい施設の整備も不十分で、生産農家のかん水への意識が低く作業の構築がされていない ・気象災害への意識が低く、対策が遅い									

②機械化一貫 体系の確立	【実施した取組】	・生産組合・作業受託者と株出し作業受委託システムを確立する ・ビレットプランターの導入 ・事業を有効活用し、農家負担軽減を図る																																				
	・ハーベスタ収穫率の向上																																					
	【目標の達成状況】		(単位:台、ha、%)																																			
	<table><tr><td></td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R元</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>刈取機 稼働台数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>ハーベスタ 4</td><td>ハーベスタ 3</td></tr><tr><td>刈取機 収穫面積</td><td>13</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>1</td><td>ハーベスタ 58</td><td>ハーベスタ 37</td></tr><tr><td>刈取機 収穫率(面積)</td><td>22.4</td><td>1.9</td><td>2.8</td><td>3.4</td><td>2.2</td><td>1.0</td><td>ハーベスタ 74.4</td><td>ハーベスタ 62.9</td></tr></table>			H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	刈取機 稼働台数	1	1	1	1	1	1	ハーベスタ 4	ハーベスタ 3	刈取機 収穫面積	13	1	2	2	4	1	ハーベスタ 58	ハーベスタ 37	刈取機 収穫率(面積)	22.4	1.9	2.8	3.4	2.2	1.0	ハーベスタ 74.4	ハーベスタ 62.9
			H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5																												
刈取機 稼働台数	1	1	1	1	1	1	ハーベスタ 4	ハーベスタ 3																														
刈取機 収穫面積	13	1	2	2	4	1	ハーベスタ 58	ハーベスタ 37																														
刈取機 収穫率(面積)	22.4	1.9	2.8	3.4	2.2	1.0	ハーベスタ 74.4	ハーベスタ 62.9																														
※R4から刈取機→ハーベスタ台数へ変更																																						
【課題】	・ハーベスタ収穫と株出管理機の作業効率化 ・人手不足であり、特に手作業の採苗に時間を要する ・製糖工場に事務局を設置し、農作業受委託システムを整備とデジタルプラットフォームを活用した情報共有体制の構築																																					
③地力の増進	【実施した取組】 ・土壌診断結果に基づいて専門講師からの施肥指導講習会開催 ・製糖工場から出たフィルターケーキは全量を希望するさとうきび農家の圃場へ投入 【課題】 ・肥料高騰による負担が大きくなっているため地力増進が重要 ・堆肥センターが未整備 ・土壌診断結果のフィードバック不足	・堆肥センターを整備し島内資源を有効に活用する ・緑肥栽培・心土破碎奨励 ・土壌診断後の効果を確認しデータ化することで指導に実用性をもたせる																																				

(3)技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
①病虫害対策	【実施した取組】 ・病虫害の適期防除の呼びかけを行った ・ヤソの一斉防除 【課題】 ・農薬での防除を推進しているが、価格の高騰により年々生産者の負担が大きくなっている ・除草が不十分	・防除受委託システム構築 ・発生予察の充実強化による早期防除対策を実施 ・補助事業を効果的に取り入れ、生産性向上を支援する																																																						
②優良品種の 選択・普及	【実施した取組】 ・採苗圃の設置(春・株) 【目標の達成状況】(単位:%) <table><tr><td></td><td>H28 (実績)</td><td>H29 (実績)</td><td>H30 (実績)</td><td>R元 (実績)</td><td>R2 (実績)</td><td>R3 (実績)</td><td>R4 (実績)</td><td>R5 (実績)</td></tr><tr><td>農林8号</td><td>8.6</td><td>2.7</td><td>7.1</td><td>6.9</td><td>11.8</td><td>13.0</td><td>7.7</td><td>6.0</td></tr><tr><td>農林15号</td><td>5.1</td><td>5.4</td><td>2.9</td><td>－</td><td>2.9</td><td>1.3</td><td>5.1</td><td>4.4</td></tr><tr><td>農林22号</td><td>1.7</td><td>1.4</td><td>2.9</td><td>1.7</td><td>1.5</td><td>1.3</td><td>2.6</td><td>0.7</td></tr><tr><td>農林25号</td><td>39.7</td><td>39.2</td><td>32.9</td><td>13.8</td><td>8.8</td><td>7.8</td><td>5.1</td><td>4.0</td></tr><tr><td>農林27号</td><td>39.7</td><td>47.3</td><td>45.7</td><td>63.8</td><td>60.3</td><td>61.0</td><td>64.1</td><td>57.2</td></tr></table> 【課題】 ・苗を育成していない農家が多く欠株が多い ・品種の偏りがある		H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	農林8号	8.6	2.7	7.1	6.9	11.8	13.0	7.7	6.0	農林15号	5.1	5.4	2.9	－	2.9	1.3	5.1	4.4	農林22号	1.7	1.4	2.9	1.7	1.5	1.3	2.6	0.7	農林25号	39.7	39.2	32.9	13.8	8.8	7.8	5.1	4.0	農林27号	39.7	47.3	45.7	63.8	60.3	61.0	64.1	57.2	・ハーベスタ収穫・手刈り収穫と収穫体制を考慮した品種の推進を図る ・土壌検診結果を基に土地にあった品種の推進 ・展示圃場をふまえた種苗ほの設置
	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)																																																
農林8号	8.6	2.7	7.1	6.9	11.8	13.0	7.7	6.0																																																
農林15号	5.1	5.4	2.9	－	2.9	1.3	5.1	4.4																																																
農林22号	1.7	1.4	2.9	1.7	1.5	1.3	2.6	0.7																																																
農林25号	39.7	39.2	32.9	13.8	8.8	7.8	5.1	4.0																																																
農林27号	39.7	47.3	45.7	63.8	60.3	61.0	64.1	57.2																																																
③栽培技術の 普及等	【実施した取組】 ・年に2回の農家懇談会に専門講師を招き、栽培技術講習を行った ・年3回生育調査を行い圃場のデータ収集を行った 【課題】 ・機械化が進む一方で農家自身の技術向上が図れていない ・生産農家訪問や圃場巡回だけでは指導が行き届いていない ・株出し多収の品種が増加したが株出栽培技術不足により低単収圃場が拡大	・展示圃場を設置し、実演・実習講習会の開催、高齢者でも可能な栽培方法の提案 ・デジタルプラットフォームを活用し、情報共有体制を構築 ・多回株出し圃場の多収化に向け適期肥培管理指導強化																																																						